



共同通信



2007年4月10日 128号(338号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email: koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 28

『音楽との出会い』

学生時代、小・中・高・短大で「好きな科目は？」と尋ねられると必ず「音楽」と答えていました。それは今でも変わりません。昔から「サウンド・オブ・ミュージック」のようなミュージカル映画や「スウィングガールズ」のような映画が大好きです。ストーリーはもちろん、その中で流れる音楽を聴くと心に強く感じるものがあります。どう感じるのか？と聞かれると、何と説明したらいいのか自分でも分からないのですが、鳥肌がたったり、時には涙が出てくることもあったりするんです。

先日、ある番組を見たのと、1枚のCDを聴いて、自分が音楽好きだと改めて感じ、音楽に対して特別な感情を抱いていることに気づきました。ある番組とは、もちろん音楽の番組で、毎日5分間、ピアノ名曲が紹介される番組です。これを見た後は必ずピアノを弾きたくなります。

私が5歳の頃、仲良しの友達がピアノを習っていました。ピアノを習いたいからではなく、習い事をしている友達を羨ましく思っ「ちゃんがしてるからわたしもやりたい！！」と母に頼んだ記憶がありま

す。習いはじめたころは半分遊び感覚でした・・・しかし、課題が出て、家でも練習しなければいけないのです。理解力がなく、覚えも悪かったせいか家での練習は必ず母に怒られて泣きながら弾いていました・・・1人で練習できるようになったのは小学校高学年頃からだだと思います（その頃、母のレベルを追い抜いた！というのがありますが～）。弾くことが嫌いになった時期もあったけれど、中学2年の時にとて素敵な先生に出会ってピアノで表現することの楽しさを教えていただいたのです。その先生と出会って5歳から約15年間（年数の割にレベルが伴っていないのですが・・・）辞めることなく続けることができました。私の音楽好きはピアノが始まりでした。

そして、「1枚のCD」とは西宮少年合唱団のCDです。小学4年～高校2年までの8年間在団していました。もともと歌うことが好きでも得意でもありませんでした。今でも上手いとは言い難いのですが、幼い頃はとてつもなく音痴だったそうです。母が「この子は耳が悪いんじゃないか・・・」と心配するくらいでした。でも、たまたま入団したのがきっかけで歌うことが大好きになったので

す。4年生の時に勘違いで持って帰ってきた手紙。母が小学校でおかあさんコーラスをしていて、母に関係する手紙だと思って持って帰りました（先生の話の話を全く聞いていなかった証拠ですね・・・）。実は入団募集の案内でした。そして、歌いたいから！という気持ちがあって入団テストを受けたわけでもありませんでした。母から詳しく聞いた時“主な年中行事”に“合宿”があると聞き、みんなで泊まることにわくわくしたから受験することに決めたような気がします。母に「合宿っておとまりなんでしょ?!」と聞いた覚えがあります。入団したのはよかったのですが、音感がなかった私はみんなと合わせる、しかもメロディーではないパートを歌うなんてとても難しく、音を読むのがやっと・・・という感じでした。1番目立つメロディーを歌いたいと思っていたけれど、声が低い私はソプラノになれるわけもなく～8年間ずっと真ん中のハモリパート、メゾでした。様々なジャンルの曲を歌って練習していくにつれて、初めは嫌いだった自分のパートも大好きになり、みんなで歌うことがとても楽しく感じるようになっていました。歌うことが好きで集まってきて、学

校とは違う場所。そこで音楽を通して一緒に時間を共有してきました。ここで過ごした8年間で、音楽ってなんてステキなんだろ～！と感ずることができました。

今まで、いくつか習い事をさせてもらったのですが、私にとってとても大きな影響を与えてくれたのは、ピアノと合唱団でした。この職業に就いたのは子どもが好きなのは1番！！ですが、この2つを活かしたいと思ったのも1つの理由です。公同に入って子ども達と一緒に歌ったり、全身で表現する姿に出会ったり、ケロポンズや宮川彬良さんのコンサートに行かせていただいたり～時

にはおかあさんコーラスで感動したり～今まで知らなかった音楽の楽しさに出会って、さらに音楽に対する気持ちが強くなっている今日このごろ・・・。

ピアノも合唱団も始めた動機は今思うとめちゃくちゃ・・・ですが、そんな理由で習わせてくれた両親に感謝！です。

(延原 光)

日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公同教会集会室

• 𐤀 𐤁 𐤂 𐤃, 𐤄 ; 𐤅 𐤆 𐤇 ; 𐤈 𐤉 𐤊 𐤋 𐤌 𐤍 𐤎 𐤏 𐤐 𐤑 𐤒 𐤓 𐤔 𐤕 𐤖 𐤗 𐤘 𐤙 𐤚 𐤛 𐤜 𐤝 𐤞 𐤟 𐤠 𐤡 𐤢 𐤣 𐤤 𐤥 𐤦 𐤧 𐤨 𐤩 𐤪 𐤫 𐤬 𐤭 𐤮 𐤯 𐤰 𐤱 𐤲 𐤳 𐤴 𐤵 𐤶 𐤷 𐤸 𐤹 𐤺 𐤻 𐤼 𐤽 𐤾 𐤿
 - 𐤀 𐤁 𐤂 |, 𐤃 𐤄 𐤅 𐤆, 𐤇 𐤈 𐤉 𐤊 𐤋 𐤌 𐤍 𐤎 𐤏 𐤐 𐤑 𐤒 𐤓 𐤔 𐤕 𐤖 𐤗 𐤘 𐤙 𐤚 𐤛 𐤜 𐤝 𐤞 𐤟 𐤠 𐤡 𐤢 𐤣 𐤤 𐤥 𐤦 𐤧 𐤨 𐤩 𐤪 𐤫 𐤬 𐤭 𐤮 𐤯 𐤰 𐤱 𐤲 𐤳 𐤴 𐤵 𐤶 𐤷 𐤸 𐤹 𐤺 𐤻 𐤼 𐤽 𐤾 𐤿
 , 𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 𐤅 𐤆 𐤇 𐤈 𐤉 𐤊 𐤋 𐤌 𐤍 𐤎 𐤏 𐤐 𐤑 𐤒 𐤓 𐤔 𐤕 𐤖 𐤗 𐤘 𐤙 𐤚 𐤛 𐤜 𐤝 𐤞 𐤟 𐤠 𐤡 𐤢 𐤣 𐤤 𐤥 𐤦 𐤧 𐤨 𐤩 𐤪 𐤫 𐤬 𐤭 𐤮 𐤯 𐤰 𐤱 𐤲 𐤳 𐤴 𐤵 𐤶 𐤷 𐤸 𐤹 𐤺 𐤻 𐤼 𐤽 𐤾 𐤿
 , 𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 𐤅 𐤆 𐤇 𐤈 𐤉 𐤊 𐤋 𐤌 𐤍 𐤎 𐤏 𐤐 𐤑 𐤒 𐤓 𐤔 𐤕 𐤖 𐤗 𐤘 𐤙 𐤚 𐤛 𐤜 𐤝 𐤞 𐤟 𐤠 𐤡 𐤢 𐤣 𐤤 𐤥 𐤦 𐤧 𐤨 𐤩 𐤪 𐤫 𐤬 𐤭 𐤮 𐤯 𐤰 𐤱 𐤲 𐤳 𐤴 𐤵 𐤶 𐤷 𐤸 𐤹 𐤺 𐤻 𐤼 𐤽 𐤾 𐤿
 ••••• 𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 𐤅 𐤆 𐤇 𐤈 𐤉 𐤊 𐤋 𐤌 𐤍 𐤎 𐤏 𐤐 𐤑 𐤒 𐤓 𐤔 𐤕 𐤖 𐤗 𐤘 𐤙 𐤚 𐤛 𐤜 𐤝 𐤞 𐤟 𐤠 𐤡 𐤢 𐤣 𐤤 𐤥 𐤦 𐤧 𐤨 𐤩 𐤪 𐤫 𐤬 𐤭 𐤮 𐤯 𐤰 𐤱 𐤲 𐤳 𐤴 𐤵 𐤶 𐤷 𐤸 𐤹 𐤺 𐤻 𐤼 𐤽 𐤾 𐤿
 ••••• 𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 𐤅 𐤆 𐤇 𐤈 𐤉 𐤊 𐤋 𐤌 𐤍 𐤎 𐤏 𐤐 𐤑 𐤒 𐤓 𐤔 𐤕 𐤖 𐤗 𐤘 𐤙 𐤚 𐤛 𐤜 𐤝 𐤞 𐤟 𐤠 𐤡 𐤢 𐤣 𐤤 𐤥 𐤦 𐤧 𐤨 𐤩 𐤪 𐤫 𐤬 𐤭 𐤮 𐤯 𐤰 𐤱 𐤲 𐤳 𐤴 𐤵 𐤶 𐤷 𐤸 𐤹 𐤺 𐤻 𐤼 𐤽 𐤾 𐤿
 ••••• 𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 𐤅 𐤆 𐤇 𐤈 𐤉 𐤊 𐤋 𐤌 𐤍 𐤎 𐤏 𐤐 𐤑 𐤒 𐤓 𐤔 𐤕 𐤖 𐤗 𐤘 𐤙 𐤚 𐤛 𐤜 𐤝 𐤞 𐤟 𐤠 𐤡 𐤢 𐤣 𐤤 𐤥 𐤦 𐤧 𐤨 𐤩 𐤪 𐤫 𐤬 𐤭 𐤮 𐤯 𐤰 𐤱 𐤲 𐤳 𐤴 𐤵 𐤶 𐤷 𐤸 𐤹 𐤺 𐤻 𐤼 𐤽 𐤾 𐤿

“ろばの背”に乗って、エルサレム
 神殿に入るイエスを、人々は「...ホサ
 ナ、主の御名によって来たる者に祝
 福あれ。今来たる、われらの父ダビデ
 の国に、祝福あれ。いと高き所に、ホ
 サナ」と言って迎えます(マルコによ
 る福音書11章9, 10節)。“ホサ
 ナ”、“救ってください”という意味の
 ヘブライ語の表現をそのまま使うの
 は、その文字を使う人たちの期待と、
 その期待に何でもって答えるのか、
 という意味内容が少なからず込めら
 れています。

イエスが生きた時代のパレスチナ
 は、ローマ帝国の支配下に置かれて
 いました。ユダヤ教の指導者である
 祭司長、長老、律法学者たちが生活の
 細部にわたって強い影響力を持って
 いましたが、イエスの処刑の場合の
 最終的な決定権を持っていたのは
 ローマの総督でした。「...夜が明け
 るとすぐ、祭司長たちは長老、律法学者
 たちおよび全議会と協議をこらした
 末、イエスを縛って引き出し、ピラト
 に渡した(同、15章1節)」。属州は、
 総督を頂点とするローマ軍によって
 支配されるのですが、その支配にす
 り寄るようにして“手先”の役割をし
 ていたのが上記のユダヤ教の指導者
 であったことが、マルコ福音書の記

述によっても示されています。
 イエスが生きた時代に、ローマは
 巨大な帝国を築きつつありました。
 巨大な帝国を築き得たのは強い軍隊
 と、それを維持する経済力で、経済力
 を支えていたのは属州からの“税収”
 でした。更に、イエスが生きた時代の
 ローマでは、権力の頂点をめぐって、
 シーザー、アントニウス、オクタヴィ
 アヌスなどによる死闘が繰り広げら
 れていました。結局、巨大な帝国の強
 大な皇帝権力が生まれる状況で、属
 州支配も大きな影響を受けること
 になります。例えば、そこで生きる人た
 ちは、ローマの支配に実際にさらさ
 れるだけではなくて、支配にすり
 寄っていくユダヤ教指導者によって
 仲間同士が分断されるということが
 起こります。仲間であるはずの人た
 ちが分断されその仲間を売っていく
 ような時代の只中をイエスもまた生
 きていました。さらに“ホサナ”とい
 う言葉で迎えられる人として。救い
 のない時代の、救いをもたらすなど
 ということが、およそ考えられたい
 状況の下で。

そんな、救いのない時代の、救い
 をもたらすなどということが、およそ
 考えられない状況の下で、イエスの
 挑んでいたらしい及びその意図らし

きことが示されます。それは“ホサナ”と叫ぶ人たちの「…父ダビデの国」という期待にこたえる内容ではありませんでした。ではないことを、明確にするのが“ろばの子”です。「…ベタニヤの付近にきた時、イエスは二人の弟子をつかわして言われた『むこうの村へ行きなさい。そこにはいるとすぐ、まだだれも乗っていたことのないろばの子が、つないであるのを見るであろう。それを解いて引いてきなさい。』(同、11章1,2節)。「そこで、弟子たちは、そのろばの子をイエスのところに引いてきて、自分たちの上着をそれに投げかけると、イエスはその上にお乗りになった」(同、11章7節)。「父ダビデの国」の栄光を夢見、悲惨な現在を生きる人たちの期待で“ホサナ”と叫ぶ人たちに、“ろばの子に乗るイエス”のことで答えるのがマルコ福音書です。しかし、その記述の中に、イエスの挑んでいたこととその意図らしきものが示されています。巨大な帝国による支配と、それにすり寄っていくもうひとつの力の只中で、“全く希望がないわけではない”ということでそれは示されることになります。“ろばの子に乗る”、の“ろば”の対極にあるのは“軍馬”です。ダビデの国の栄光はどちらかというど“軍馬”によって築かれました。イエスの登場は“ろばの子に乗る”ことによって、それらの期待を全く裏切ってしまう。ただ裏切るだけでなく、そのことの意図をを明らかにしたのが、ゼカリヤ書9章9,10節です。「…シオン

の娘よ、大いに喜べ、エルサレムの娘よ、呼ばわれ。見よ、あなたの王はあなたの所に来る。彼は義なる者であって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る。すなわち、ろばの子である子馬に乗る。わたしはエフライムから戦車を断ち、エルサレムから軍馬を断つ。また、いくさ弓も断たれる。彼は国々の民に平和を告げ、その政治は海から海に及び、大川から地の果にまで及ぶ。」これが“父ダビデの国”の栄光を期待した人びとに対する答えです。軍馬に対してより強い軍馬ではなく、示されるのはただの“ろばの子”です。“戦車を断ち”、“軍馬を断ち”、“いくさ弓も断ち”、“彼は国々の民に平和を告げる”ことを、あれこれおしゃべりではなく、イエスは身をもって“ろばの子に乗る”ことで示します。巨大な力とそれに擦り寄っていくものたちの只中で、こうして身をもって示すことは、全く取るにしないのですが、その足跡はしかし決して誰も消し去ることはできなかった、ということが例えばマルコ福音書に書き残されることになりました。

後藤は、高校、大学の卒業式に出ていません。高校は大学受験を、大学は神戸の就職を理由にしたからです。で、この3月10日、沖縄の某大学大学院を終えるにあたり、出てみようと思ったのです。スーツ姿が男女とも目立ちましたが、女性は琉装、あるいは着物にはかま姿、男性でも一人琉装、紋付なんかを着ているのもいました。後藤は、改良韓服にしました。中国からの留学生は記念だからと着物・はかまでした。長い式にはうんざりさせられましたが、院1から花束やらをもらって何となく気分ができました。昔は「神学修士」とか「文学修士」なんていう呼称でしたが、もらった学位記には「修士(地域研究)」となっていました。10人入学して今回6人の修了。論文一位は100万円の奨学金。ちゃんとまじめにやっていたらよかったとしみじみ思いました。その後理事長、教授たちと会食やらあり、11時に始まった一連の行事から開放されたのは4時を回っていました。

4月以降、「沖縄戦と朝鮮人」を2年くらいかけて執筆、途中韓国と沖縄がらみの民俗学や文化論みたいなものを何本か書くというつもりです。沖縄における韓国学というのはまったく手付かずなので少しやる意味はあるかと思うのです。

さて、その卒業式であらためて感じさせられたことがあります。沖縄の、特に若者の就職率の厳しさは何かにつけて指摘されています。卒業式に配られたペーパーはそのことが良くわかるような気がします。

卒業生は355人です。退学、休学者が100人近くいます。これはまず学費を4年間払い続けることが困難なことが理由にあげられます。就職希望者は211名となっています。二部の人など勤労、社会人学生がある程度いることは理解できます。就職決定者は県内108名、県外就職は16名です。就職率58.8%です。元々本土出身者もいますから、多くが県内就職希望であることがわかります。やはりで、この大学も「福祉」の学科を作っています。就職率はわずかに25%です。もちろん、後藤の職場を含め、4月採用はあまりないのですが、それでも当分就職浪人でもするのでしょうか。また、就職希望しない人々は、教員・公務員などを目指す学校などにもいくとのこと。いずれにしろ、同じことです。これが沖縄大卒者の就職状況の一端です。

大学側が、教授陣がもう少し就職活動(企業開拓)に熱心であるべきこと、学生自身が就職=自活・自立を考えるべきこと、親も子離れしていないことなどいろいろ原因が考えられると思います。もちろん、大学が就職

展示されました。展示されていたものの中には、須磨の海へ遊びに行ったときに拾ってきた石で作ったパーウエイト、宿泊保育の時、氷見の海で見つけた『うみのホネ』で作ったモビールなど、この1年間みんなの思い出がたくさん詰まったものがありました。そんな作品を見にたくさんの方々を訪れてくださって、あの素敵な空間を楽しんで帰っていただけたことを嬉しく思います。たくさん足を運んでくださってありがとうございました。

そして、3月16日は、2006年度の卒園式でした。これまで幼稚園で過ごしてきた2年間、3年間を振り返

りながら、たくさんの方々に見守られて、無事に卒園式を終えることができました。巣立っていった68人の子どもたちが、それぞれの場所で、幼稚園で過ごした日々を思いながら過ごすことができますように。

そんな年長さんに「こうどうようちえんをよろしくおねがいします！！」と言われたさんぽさん、らったさん、ぽっぽさん。みんなは終了式の日新しい帽子をもらいました。ひとつおにいさん、おねえさんになって、4月からの新しいクラスに向けて期待を膨らませていたみんなです。

(山崎由貴)

• „ , ^a • o % i , Á , ½ , ç , ë , ñ , È • l , ½ , ç

今年度の関西神学塾の講義が、3月23日(金)で最後の講義となりました。毎年毎年新たな気持ちで、また新たな提案のもとに始められる神学塾ですが、今年度ももりだくさんの新しい提案、また大切にしたい内容などが盛り込まれ、とても充実した1年間を送ることができました。

神学塾との出会いは、西宮公会館に来てからでしたが、学生時代にこのような講義を聞く機会があったらもっともっと勉強の楽しさがわ

かったことだろうと感じています。桑原重夫先生の講義からは、新約聖書の歴史について、歴史を通して読む聖書、そしてそこから受け取る現実の世界についてなど・・・さまざまなことを考えさせられてきました。先生には、教会の特別礼拝の説教も担当していただきましたが、桑原先生の生き方や生きてきたひとつひとつの時間そのものが講義の内容として伝わってきました。冗談をこめながらも、「もう隠退や～」などと言わ

れている先生ですが、みなさんの強い希望のもと講義を続けて下さっています。勝村弘也先生の講義では難しいヘブライ語を日本語に訳しながらその文書の起源や伝承に迫り、当時の人間の生き方や考え方に思いを馳せてきました。学問は本当に奥が深く、おもしろいものなのだということを先生の授業や本などから学ぶ機会が与えられてきました。震災当時の先生の働きが、学問でもあること、学問とは机の上の勉強だけではないこと、学問を深めるために必要なものなど、そのようなことについても考えさせられる授業でした。

田川健三先生のマルコ福音書注解の授業は、全国から集まるメンバーと共に、講義を聞かせていただく貴重な機会でした。自分が何一つ聖書のことを知らない事実や、真剣さが足りないことなどから始まって、恥をさらしながらも本当に興味深い授業を受けることができました。2時間みっちり語られる聖書の話が、また知識や学問、そして聖書の真髄へ切り込んでいく勢いと才能にふれるという経験はとてとても貴重なものでした。他の先生方にも共通する、一步も引かない学問への姿勢そのものにふれることができたことだけでも貴重な体験だったと思っています。

岩井健作先生の宣教学は、「岩井健作の宣教学」という題名のとおり、先生の生き方そして先生ご自身の教会との向き合い方、信仰の探求の方法、教会で、また日本で、またこの時代に生きていくことの意義や意味を問う内容に触れることができました。「宣教とはこういうものだ」と一例が語られるのではなく、今現在問われていること、またご自身が問うていることなどから出されるひとつの命題、また学問は、やはり生き方そのものが反映されている言葉となっていました。

特別講義で出会った飯先生や新免先生、「教会と聖書」と共催の合宿で出会った方々との出会いなども貴重な財産になりました。そして、ギリシャ語の授業を神学生と牧師のために無償で開いて下さった小林昭博先生からの授業も心に残る時間です。もっともっと前に出会っていたら・・・と思うことが多い学びのときでしたが、「今」という貴重なときがどんなときにも与えられていて、二度と与えられない貴重な時間だったことも改めて感じる機会でした。多くの出会いにまた再会できる日、自分の言葉で語り合えるときがくることを願いながら新たな一年を歩みだしたいと思っています。(田中知恵)

大切な贈り物・津門川 56

“津門川を見る目の変化”

普段何気なく見る津門川と掃除し終えた後に見る津門川は違う様に見える。

自然が生み出す情緒漂う景観を否定するつもりはないですが、一般に街中で綺麗だと感じる風景や町並みは、人工的に手のかかっている部分が多いかと思います。区画整備された道路や虫の付かない木々が一直線に並んでいる景色を見て妙にすがすがしい思いを感じたこともあるのではないのでしょうか。

そういった見方が僕の頭の中にあつたため、人工的でない津門川に意識を振られることは今までありませんでした。しかし、川掃除に参加させてもらってから違う見方を教えられることとなりました。

掃除を共にした、以前から津門川周辺に住む住民は、「30年前の川の状態は、決して今ほどきれいじゃなかったよ。」と言っていました。

事実、今この川にはたくさんの生物が住んでいます。鯉も泳いでいれば、鯰も泳ぎ、空からは鴨が下りて首を川に突っ込んでいる。川掃除をして分かったのですが、蟹さえも生活

していました。

「とても綺麗になったよ。」と。なるほど。津門川には歴史がありました。

その歴史を見ても、確実にこの川は日々成長しているんだと実感することができました。

今社会では全て壊して新たに創造する綺麗さを求めているように思われます。しかし、津門川のように既存のまま自然に逆らわず人の手でごみを取り歴史を保つよう努めることが現代人に忘れがちな大切な行動ではないかと考えます。必要以上に自然を壊して人工的な自然を作ることにはたして重要なことなのでしょうか？

津門川は人に支えられて以前よりも確実に綺麗になりました。住む生き物も増えました。それほど綺麗になるにはボランティアの方々の並々ならぬ努力があり、川に対する愛があつたことでしょう。僕は川掃除に参加したことで発見した目をもって、この素敵な川をこれからも見続けたいと思います。

(輪島 裕久)

2007年4月 あんなこと こんなこと...

- ・4月 1日(日)午前6時30分～、早天祈祷会
- ・4月 2、3日 淡路島ワークキャンプ
- ・4月 8日(日)午前10時45分～、イースター記念礼拝
「このお話は本当にあったことだといってよいでしょう」
- ・4月 15日(日)午前10時45分～、特別礼拝 高橋敬基先生
- ・4月 17日(火)午前10時～、ゆっくり聖書を読んでみませんか
- ・4月 30日(月)カレーパーティー

にしきた商店街...

- ・4月 1日(日)午後12時30分～、津門川掃除
- ・4月 3、17日(火)野菜市(アーチガレーヂ)
- ・4月 15日(日)ストリートミュージシャンコンテスト本戦
アートガレーヂ
- ・4月 13～15日(金～日)写真展
(教会のウィンドウに掲示されていた写真です。 撮影：菅澤邦明)
- ・4月 24～30日(火～月)予定 タイの絵展
(津門川の自然を守る会・日本水環境学会関西支部共同企画)

関西神学塾

- ・4月 6日(金)桑原重夫先生 「使徒行伝を読んでみよう(22)」
- ・4月 15日(日)公開特別講義(兵庫教区との共催)
高橋敬基先生(小田原教会牧師)
「新約聖書における教師理解」
- ・4月 20日(金)田川建三先生 「マルコ福音書註解(中)(38)」
- ・4月 27日(金)勝村弘也先生 「死海文書を読む(23)」

教会学校から

《3月の活動報告》

3月4日(日)まと当てドッチビー

3月11日(日)切り紙パート2

3月18日(日)

新入生歓迎パーティー・うたって
うたって歓迎会

3月21日(水)

教会と子どもどもセミナー

3月25日(日)歓迎ガーデンパーティー

《4月の活動予定》

4月1日(日)イースターカード作り

4月8日(日)

イースター礼拝、卵探しゲーム、卵
を食べる！

4月15日(日) 笛で遊ぶ

4月22日(日)

ちょっといいこと・映画鑑賞会

4月29日(日)作って遊ぶ

4月30日(月)カレーパーティ

今月のあ・そ・び

“ケーナ”で遊ぶ

“ケーナ”のワークショップで、ケーナを作りました。夏に兵庫県立芸術文化センターでモーツァルトの「魔笛」の公演が予定されています。それが「魔笛」と呼ばれるくらいですから、オーケストラの編成には“笛”が中心になるオペラなのです。オーケストラで演奏されるのは、フルートやピッコロなどの笛ですが、主人公たちはその笛の魔力、「魔笛」の助けを借りて、危険を克服していくというのがオペラの筋書になっています。ただし、その「魔笛」の力をもってしてもハッピーエンドで終わらないというのがモーツァルトのオペラの際立っているところでもあるらしいのですが。

というモーツァルトの「魔笛」に登場する笛ではないのですが、手作りできてしまいそうな楽器ということで、ケーナのワークショップをすることになりました。

手作りの笛がケーナになったのには、それなりの理由があります(兵庫県立芸術文化センター・佐渡裕プロデュースオペラ・モーツァルト「魔笛」公演記念・主催・にしきた街舞台実行委員会)。何よりも、ケーナを作れてしまいそうな笛が身近にあったことです。阪急神戸線を西宮北口からさらに行った線路沿いの武庫川の手前にある神社が日野神社です。その日野神社の境内の南端にその竹が

ありました。以前、2～3度その竹をもらってきて、笛らしきものを作ってみたことがあります。本気で作ったのでも、本気で演奏の練習をしたこともありませんでした。それが、「魔笛」のことでケーナのことになって、本気で作ってみることになりました。そうこうしているうちに、本気でケーナを演奏している人がいて、本気でケーナ作りをすることになって、本気で日野神社の宮司宮崎さんとお話をするようになりました。

こうして、うれしいことに日野神社のその竹は、本気でケーナを演奏し、本気でケーナ作りをする人に、全くぴったりの竹であることも分かりました。フシの間隔、口径、肉厚など、どれをとってもぴったりの日野神社の竹の名前のことは、未だに“不明”です。フシの間隔が長く、黄色っぽくて縦に緑の線が2～3本入っているその竹は、見た目も美しい竹です。

3月25日に約20名の子どもたちと大人が集って、約3時間かけて全員ケーナを完成させることができました。音出しはすぐにはいかなくて、それぞれの宿題になりました。自分でも作ってみたケーナは、少しずつ音が出るようになって、何とか“かえるのうたは・・・”を吹けるようになりました。ただし、“本番”には弱くて、“完奏”できたのは時々です。
(菅澤邦明)

, ũ ç Ì È ñ Ą ă Ā"à

春ですねー。とは言っても京都はまだ夜が寒くて未だにダウンジャケット愛用してます。早く桜が咲かないかなぁ・・・夏生まれながら、一番好きな花は桜です。たまーにしかならない香水も、桜です。桜モチーフの雑貨やらアクセを見るとテンションが上がります。でも季節物なんで、買おうとは思わないですけどね。やっぱり咲いても、いつか散るのが桜ですから。奈良時代から和歌にも詠まれていることですが、最近、そういった自分の中のすごく「和」な部分に気づくことが多くて、何だか嬉しいです。食べ物に関して、めっきりパンパスタ万歳の洋食主義かと思いきや、抹茶やきな粉や豆乳などの、和素材を使ったお菓子には必ず反応しちゃうんですね。西洋史なんて専攻しててもやっぱり私て日本人なんだなあと。まあ外見から言っても超日本人(平面顔、なで肩、寸胴)なんですけど。着物ラブです。夏はミュールより下駄です。

そんな私、本日とっても和の世界の華やかさを現代の映像として詰め込んだ映画を観て参りました。安野モヨコの漫画を原作にした『さくらん』です。元々、ファンクラブに入ってしまうほど好きな椎名林檎女史が

音楽監督として参加しているとあって興味はあったのですが、江戸時代の吉原を舞台にした花魁の映画と言うことで、これはもう、世が世なら中世ヴェネツィアの高級娼婦に生まれなかったらと思っておりました私としては観に行くしかなかったのです。日本史も好きですし。で、観にいったら久々に遊郭熱が上昇してきましたので、本日は誠に不健全ながら、吉原についてちらっと紹介しつつ『さくらん』の感想を綴ろうかなと思います。

不健全とは言っても江戸の吉原は現在一般に思われている遊郭のイメージとは全く違って、いかがわしい所ではなく、むしろ幕府公認の社交場の様な場所でした。誰でも入れるわけではなく、ある程度の身分と金を持ち、遊び方を心得ている人々が集う文化的サロンであり、文芸、音楽、ファッションの流行の発信地でもあったのです。お歯黒溝と呼ばれる堀で囲まれた、周囲から隔絶された世界で大小様々な店が立ち並んでいました。そこで暮らす遊女は、小さいときから禿(かむろ)として遊女屋に住み込みで奉公し、新造を経て、座敷持、昼三、そして呼び出し花魁へとという道を辿るのでした(呼び出し花

魁になれるのはごくごく一部でしたが、花魁というのは吉原における最高級遊女で、金銭になびかず誇りを第一とする「意気張り」を信条とし、容姿は勿論のこと歌舞音曲、囲碁、将棋、茶道、華道にも優れていなければならず、手練手管で客を思うがままに操る技量も必要とされました。カッコいい。花魁の馴染み客になるには、三度は通わないといけなくてお金も相当かかるので、庶民にとっては羨望の的でした。それでもその気位や自由は所詮吉原の中だけの自由で、馴染みになった大名や武士に身請けされるとなれば選択の自由はなく、しかもそれ以外に吉原を出る道はないのでした。

さて、そんな吉原を舞台にした映画『さくらん』だったのですが・・・以後ネタバレしますので観に行く予定のある方は注意。全体的に色彩とか画面は、さすが蜷川実花！と感じて美しかったのですが、話の筋がどうも。途中まで上記のような吉原の理をうまく描いていると思っただけに終盤が残念。あのラストじゃ矛盾ですよー。しかも何か軽いし！花魁としての誇りを見せて欲しかったなあ。あと、教養的な場面も欲しかった。何か普通に話してお酌して、というも

てなしばかりだったので。粧ひと高尾の生き様は良かったのだけれど。あと女将がイチオシやったのですけれど。やっぱ、ああいう時代物の映画は、ストーリーよりも、画面を楽しむために行ったほうが良いみたいです。特に私のような歴史ヲタはね。でも本当、画面としての美しさや、舞台装置や、脇役は非常に素晴らしかったです。林檎さんの歌は、私が聞き込みすぎてたこともあって若干気になってしまいましたが・・・。あとさすがにお客さんが一定の年齢以上の女性ばかりでした。2時間、極彩色世界にトリップするには非常に良かったです。そんな映画。では、来月はまた健全に戻ります故、今回はこの辺で。

(高橋 舞)



つとがわ 編集後記

昨年一月の北陸地方の大雪の折の事故の後、父は病院、ケアハウス、老健施設と自宅に帰るといふことはできなくなっていました。3月26日、27日とそんな父と一緒に田舎の家に帰り、数時間過ごすことができました。車の乗り降りなど、すべて人手が必要な父ですが、段差の多い自宅の玄関も、人手を借りながら自分の足で昇って、自分の足で降りました。そして言葉も少なくなった父ですが、車から降りて庭で一休みをした時に、庭でつんだふきのとうに笑顔になって、一年ぶりに自分の家に帰ったことに気付いて、とてもうれしそうでした。そんな時間を過ごして欲しいと願って、老健施設でのお世話をお願いしているOさんやMさんの助けがあって、そのことは実現しました。Mさんは、かつて母が作っていたのと同じ田舎の料理を、たっぷりその日の為に用意してくださいました。流動食がほとんどの父ですが、そして入れ歯もはずしたままなのに、一つ一つの料理をおいしそうに食べていました。そうして父と一緒に食べた、Mさんの手作りの田舎の料理の味は、もうひとつの新しい父との思い出となりました。(K)

幼稚園の園庭のけやきの木に小さな小さな葉っぱが顔を出しています。夏には大きな木陰を作ってくれて、秋にはたくさんの落ち葉となって舞い落ちる。子どもたちの生活をいつも見守っていてくれたけやきの木にも新しい命の始まりに会えて嬉しくなりました。いろんなところでまた新しい始まりです。これまでがあるからこれからがあるんだなぁとけやきを見上げながら改めて思いました。素敵な春になりますように...。(I)

先日、さんぼ・らったさんたちと王子動物園へ行ってきました。桜並木の枝々には、たくさんのツボミがついていて、去年度みんなでみた満開の桜の風景がよみがえってきました。何度も足を運んでいる場所でも、みんなと一緒にだとその度に新たな発見があります。そうやって様々な貴重な体験を、子どもたちと一緒に楽しませてもらってきました。みんなと過ごした特別な毎日

何にも変えられない大切な宝物 素敵な毎日を与えられてきた事に、改めて心から感謝！です！！

(Y)

虫歯が出来てしまい、治療に行かずにほったらかしにしていたのですが、先日5年振りに歯医者に行ってきました。深く削られボッカリ穴が空いてしまった時、自分の歯をもっと大切にしていけないと...と思いました。(N)

私は、『いつもとおんなじ帰り道』を気分によって変えるのが好きです。たまにはバスに乗ってみたり、一駅歩いてみたり...そして先日も、乗ったことのない線のバスに乗って、いろいろなバスを乗り継いで帰りました。すると、初めて目にする風景が飛び込んできたり、どこの道がどこへ繋がっている！という発見があったりで楽しんで帰ることができました。そういう時間はとてもゆったり流れているようで大好きな時間です。(Y2)

春・桜満開！緑の木々の芽吹きも美しい。青空にすべてが映えて輝いているのを見ると身も心も軽やかに～。思いはそうなんですが、実際には気持ちだけが先走り、身はちっともついていかずというのが実状です。春・4月、新しいスタートがそれぞれにあることでしょう。幼稚園も9日始園、12日入園式です。保育所に行っている孫は誰よりも一足先に上のクラスに、2日からです。こちらはうれしさと、年齢以上の自立を求められる反動で心は半分こに、加えて母親の転勤などで相当に落ち着かない新年度を迎えています。わたしはといえば、玄関に草鞋が何足も並んでいる気分、もともと靴の溢れている片付かない、一体何人家族かというお恥ずかしい玄関ではありますが～。右と左が違うということだけは避けようかなと思っています。2007年度もよろしく。(J)